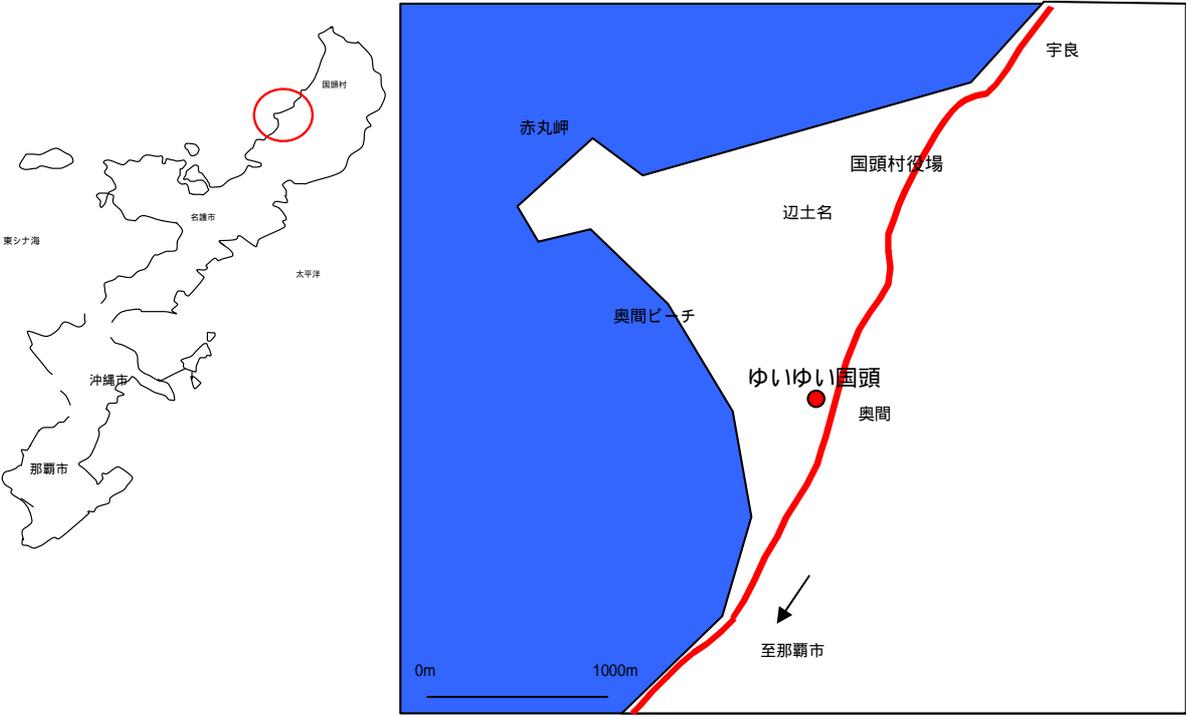


観光社会資本の事例

テーマ	作り手の思いがこもった「かかし祭り」
【施設の状況写真】	
	
<p>車による旅の休息地、また、やんばるの観光情報基地として地元と観光客に広く利用されている。</p>	<p>やんばるの特産品・民芸品等を販売することで地域の連携の一翼を担っている。</p>
【施設の利用写真】	
	
<p>祭りのメイン会場として、かかし作り等の体験コーナーを設け村内外の親子で賑わいをみせている。</p>	<p>やんばるの青い空の下、自然素材に拘わり作り手の思いが込められた「かかし」たち。</p>
【観光資源としての利用状況】	
<p>道の駅「ゆいゆい国頭(くにがみ)」は平成11年4月にオープンして以来、沖縄本島北部地域の産業振興を目的に、観光情報基地・地元で採れた野菜や果物の販売拠点として活用されている。また、館内の展示コーナーでは地元の子供達、時には地域の芸術家による作品がならび訪れる人々の楽しみとなっている。</p> <p>ゆいゆい国頭をメイン会場として過去3回行われたかかし祭りでは、タープで釣りをしているもの、バス停でバスを待っているもの、サウキビを刈っている老夫婦など100体あまりのかかし達がユニークな姿で存在をアピールしていた。</p>	

テーマ	作り手の思いがこもった「かかし祭り」
【社会資本の基礎データ】 名称 道の駅「ゆいゆい国頭(くにがみ)」 所在地 沖縄県国頭郡国頭村字奥間 1605 番地 事業名 国頭村観光物産センター整備事業 事業主体 国頭村 事業期間 平成5年～平成10年	
【社会資本の役割・効果】 ・休息施設 やんばるの路の休憩施設として、ゆったりとした駐車場・清潔なトイレ・レストラン等を設けてあり展示コーナーとともに旅の疲れをとるくつろぎの場となっている。 ・情報交流発信基地 道路情報、地域の特産品や観光案内、やんばるの歴史や文化などを紹介することで、利用者と地域との交流の一翼を担うとともに観光スポットとなっている。 また、やんばるは亜熱帯の自然が残り貴重な動植物が生息する自然の宝庫であるため、多くの人々にその重要性を知ってもらい未来へと引き継いで行くための情報も発信している。 ・地域振興・連携強化 国頭村の新鮮な海山の幸、木工品、焼き物などのPR・展示販売を行うことで地場産業の振興、観光PR、開発の促進と活力のある地域を目指している。	
【位置図】 	
【関連ホームページ】 ゆいゆい国頭 http://www.k-trinity.co.jp/yuiyui/	

